

動画制作を取り入れたオンデマンド型オンライン授業実践

—大分大学教養教育科目「衣生活の科学と文化」—

都甲由紀子 (大分大学教育学部)

2022年度に大分大学において教養教育科目「衣生活の科学と文化」を開講し、オンデマンド型オンライン授業を実践した。衣生活をテーマとした受講生の動画制作、動画作品の相互評価を取り入れた授業の学習効果を検討した。動画の制作に取り組むことで、著作権の知識も得つつ、科学と文化そのものの意味を考えながら衣生活について理解を深めている様子が見受けられた。

キーワード： 衣生活，科学，文化，オンデマンド型オンライン授業，動画制作

1 はじめに

1.1 研究の目的

本研究は、大分大学においてオンデマンド型オンライン授業で開講した教養科目「衣生活の科学と文化 (Clothing Science and Culture)」(2022年度)を振り返り、学生の学習効果について検討することを目的とする。衣生活は科学と文化の側面を併せ持ち、文理融合の学習テーマとしての可能性が大きい。「科学」「文化」という言葉の定義を明らかにした上で両側面を組み合わせ、視聴者に知的好奇心を持たせるオリジナル動画を制作して発表することを目指す授業を設計した。

1.2 衣生活を扱う教養科目を設定する意義

衣生活についての教育は、義務教育過程において家庭科の衣生活や生活指導の中で扱われる。しかし、家庭科の中で衣生活の内容は削減され、衣服は購入して全自動洗濯機で手入れをする時代において、衣服の製作工程や洗濯の手順等はブラックボックスになり、知識や技術が身についていない様子がある。衣服を着ることは身近なことであり、人として全員が当事者であることから、衣服に関わる知識を得ることは豊かな衣生活を送ることにつながる。温熱環境や材料化学といった自然科学と、染織文化に通じる学術情報も存在する。

衣生活をとおして学際的な教養を身につける科目の設定が可能であると考え、教養科目として「衣生活の科学と文化」を設定した。

1.3 オンデマンド型オンライン授業設定の経緯

2020年度には「色彩の科学と文化」という教養科目を設定した(都甲, 2021)。「色」に関することをテーマとして選び、探究したことをまとめてオリジナルの動画制作を課題として取り入れる授業の手法を用いた。ビデオ会議システム (Zoom) と LMS (Moodle) を併用して同時双方向の授業を実施した。同じ手法を用いつつ「衣生活」の科学と文化をテーマとして、2021年度には LMS (Moodle) を活用したオンデマンド型オンライン授業の教養教育科目「衣生活論 (Clothes and Human Living)」を新設した。2020, 2021年度は COVID-19 感染症対策としてオンラインで授業をする必要に迫られたが、2022年度は対面と並行してオンデマンド型オンライン授業の開設が可能とされた。感染に対する不安のある学生に選択肢を与え、オンライン授業の利点を活かした授業の可能性を検討していく必要もあると判断した。授業内容を衣生活の「科学」と「文化」により強く照準を当てて「衣生活の科学と文化」と名称を変更することとした。

2 オンデマンド型オンライン授業計画の概要

大分大学教養科目「衣生活の科学と文化」は、オンデマンド型ではあるが、一方通行の講義ではなく、受講生のアウトプットの機会を充実させる設計に心がけた。2021年度に開設した教養教育科目「衣生活論」もオンデマンドを基本としたが、同時双方向で自由参加の質問の機会を2回設けた。「衣生活の科学と文化」は完全オンデマンド型を目指した。シラバスの内容を掲載し、講義の概要を解説する。

2.1 講義計画（シラバスの内容）

【授業科目名と科目属性等】

衣生活の科学と文化 Clothing Science and Culture（全学共通科目，文化・国際／総合）

2単位，対象年次：1・2・3・4年，

学部：教，経，医，理工，福

学期：前期，曜・限：水曜日3限（13:10～14:40）

【授業の概要】

衣生活の科学と文化に関する学術的なテーマを設定して3分動画を制作することを目指す。動画制作を通して次の3つの力を身につける。

1. 衣生活に関する科学的側面と文化的側面について主体的に学ぶ力
2. 知的財産権(著作権)について学び，この権利に配慮した表現や動画発信を実践する力
3. 客観的評価の視点を持って他学生と相互評価できる力

【具体的な到達目標】

目標1 衣生活に関わる科学と文化の内容を複合的に整理して説明する

目標2 3分間のオリジナル動画を制作する

目標3 著作権に配慮して動画を制作する

目標4 他の学生が制作した動画を評価する

【アクティブラーニング】

レポート，意見交換，3分動画の制作，ループリックによる自己評価，他者評価

【その他の工夫】

LMS(Moodle)の活用，動画の活用

【時間外学習】

準備学習：教科書を読む(20h)，

動画を制作する(20h)

事後学習：動画をリニューアルする(10h)，

他の学生が制作した動画を視聴・評価する(10h)

【教科書】

- ・山口庸子・生野晴美「衣生活論 持続可能な消費と生産」アイ・ケイコーポレーション(2019)

【参考書】

- ・間瀬清美・薩元弥生「衣生活の科学」アイ・ケイコーポレーション(2017)
- ・楠 幹江「布文化の科学・十話 衣服学への誘い」化学同人(1998)
- ・Alison Matthews David「死を招くファッション服飾とテクノロジーの危険な関係」化学同人(2019)

【成績評価方法及び評価の割合】

フォーラムへの投稿 30%，動画 20%，

レポート 30%，他学生が制作した動画の評価 20%

表 1 授業の内容計画

	授業の内容
第1回	ガイダンス 「衣服と被服」について
第2回	動画の制作方法 (自己紹介動画の制作)
第3回	衣生活の科学
第4回	衣生活の文化
第5回	衣生活に関わる 学問の学際性と STEAM 教育
第6回	著作権について
第7回	3分動画のテーマ， 評価基準の設定
第8回	3分動画の制作1 文献収集・ドラフト投稿
第9回	3分動画の制作2 完成版ドラフト・スライド投稿
第10回	中間報告
第11回	3分動画の制作3 動画の投稿，改善アドバイス
第12回	3分動画の制作4 動画の完成
第13回	動画の相互視聴，評価1
第14回	動画の相互視聴，評価2
第15回	まとめ

【注意事項】

動画制作技術については、PowerPoint、Keynoteを用いた動画の制作方法、ファイルサイズを小さくする方法など、一通り扱う予定であるが、教えてもらうという受け身の姿勢ではなく、受講者自身が使う OS やソフトウェアの種類等を把握して主体的に学ぶ姿勢が求められる。

【備考】

Moodle を用いたオンデマンドで実施する。受講人数は 60 名を上限とする。制作した動画は一般公開する。

【リンク】

授業時に視聴する動画↓

URL: <https://togolabo.jp/material/video/>

2.2 オンデマンド授業対応

2020 年度と 2021 年度は COVID-19 感染拡大防止のため、大分大学の授業は原則的にオンラインで実施され、Zoom を活用して同時双方向の授業が可能であった。2022 年度は対面での授業が実施されることとなったが、教養科目はオンラインの場合オンデマンド型授業の開講に限定された。「衣生活論」は 2021 年度にもほとんどオンデマンド型オンライン授業として実施していたが、2022 年度には「衣生活の科学と文化」を完全オンデマンド型オンライン授業として開設した。講義動画、資料等を組み合わせて実施した。

3 授業実践

ここでは実際に実践した授業の内容と、動画作品の評価方法について述べる。且野原キャンパス 4 学部の学生 84 名が履修した。1 年生が 2 名、2 年生が 37 名、3 年生以上が 44 名であり、受講生はほとんど 2 年生以上であった。公開授業の受講生の登録が 1 名あった。福祉健康科学部 1 名、教育学部 3 名、理工学部 28 名、経済学部の学生が 51 名であり、最も多かった。

3.1 授業の実践内容

【第 1 回】ガイダンス

ガイダンスとしてシラバスの内容を説明した。本授業の大きな課題は「衣生活に関するテーマについて、科学的側面、文化的側面、両面から視聴者に知的好奇心を持たせる 3 分動画の制作」であ

ることを伝えた。制作のプロセスを重視することを説明し、前年度に「衣生活論」受講生（1 年生）が制作した作品を紹介した。前年度受講生の授業アンケートへの肯定的・否定的両面の回答を紹介し、履修を始める心構えを伝えた。

制作する動画のテーマは教科書の内容から選ぶことになることを伝えた。「衣」と聞いて連想するもの、「衣」と「服」の違い、「衣服」と「被服」の違いについてアンケートで回答してもらい、学問対象とするには言葉の定義が重要であることを確認した。

まず初めに、「思い出の衣服」のエピソードを交えて 1 分間の自己紹介動画を作ってもらうことを伝え、フォーマットとなる PowerPoint ファイルを渡して、まず動画にするスライドを作成する課題を出した。その際、著作権配慮についても注意した。課題は授業日の週の土曜日 17 時とした。

【第 2 回】動画制作の方法

ガイダンスの補足をして、自己紹介動画の制作に関して方法や著作権配慮、動画のファイル形式に関する説明をした。初回のアンケートの回答をテキストマイニングで分析した結果を示し、振り返った。「衣」について議論する際、その前提となる言葉の定義を確認できていないと話が噛み合わなくなってしまうので、言葉の定義に対する認識を共有しておく必要があることを伝えた。「衣」「服」「衣服」「被服」の違いが説明しにくく、わからなかったなら、辞書を引いて調べる姿勢も持ってほしいことを伝えた上で、それぞれの定義を確認した。

「衣生活」としているが、胴体を覆う衣服だけでなく帽子や手袋、靴や靴下も含む「被服」を対象とできることを伝えた。

この回のアンケートでは、「文化とは」「科学とは」についてまずは辞書を引かずに解説してみて、その後辞書を引いてみるよう促した。

自己紹介スライドに、300 字分の発表原稿を執筆し、ナレーションを録音して 1 分の動画にする課題を出した。

【第 3 回】衣生活の科学

作成した 1 分の自己紹介動画をフォーラムに投稿するよう促した。

最終課題の条件として、「オリジナルであること」「ストーリー性を持たせること」「学術的な内容であること」を伝えた。合成音声などの技術活用について許可を求める質問があったので、可とした。

科学の定義を確認し、「衣生活の科学的な事象」について事例を挙げて説明してもらおうアンケートを実施した。

教科書の3章「衣服の素材と加工」の通読、「繊維の種類」のオリジナル動画の視聴を求めた。

ナレーションの録音やスライドから動画への変換がうまくいかない履修者に対し、同時双方向の質問機会を提供した。学生1名、公開授業受講生1名の入室があった。

【第4回】衣生活の文化

衣生活に関わる科学的な事象についてのアンケート結果をまとめ、事例を挙げて報告した。物理学や化学などの自然科学に通じる内容が多いことを確認した。

続いて文化の定義を確認し、「衣生活の文化的な事象」を事例を挙げて説明してもらおうアンケートを実施した。

教科書の2章「着装の心理とマーケティング」、7章「染色と染め文化」、8章「きものと日本文化」をの通読に加え、それぞれの一部解説動画の視聴も求めた。

受講生本人以外の受講生の自己紹介動画を視聴して、コメントすることを求めた。コメントの書き方として、否定はしないこと、写真の容姿には触れないことを伝えた。

【第5回】衣生活に関わる学問の学際性

衣生活に関わる文化的な事象についてのアンケート結果をまとめた。衣生活は科学にも文化にもさまざまな分野に深く関連があり、「学際性」のある研究が必要であることを伝えた。教育も各教科に分けて行うだけではなく、学際的に関連づけていく方向性が見られ、STEAM教育が推進されていることも示した。STEAM教育における被服学の可能性についても伝えた（都甲，2022）。

教科書の4章「衣服の製造と着装」、5章「衣服の機能と快適性」、6章「衣服の管理と環境」の通読、関連する動画の視聴も求めた。絵本「ペレのあたらしいふく」の読み聞かせ動画視聴も求めた。

【第6回】著作権について

大分大学研究マネジメント機構 知的財産管理部門長 松下幸之助先生の講義動画の視聴を求めた。著作権とは、著作権で規定する権利、著作者とは、著作（財産）権の権利期間、著作人格権とは、著作者の権利と侵害行為、身近な著作権法違反の事例、許諾なしに著作物を利用できる場合について解説していただいた。

第7回には制作する動画のテーマを報告してもらったことを伝えた。オリジナル動画を制作することについては、繰り返し確認した。

自己紹介動画を投稿し、他のメンバーにコメントしてからでなくては、3分動画作品の投稿資格がないことも確認した。

動画作品の制作にあたり、お互いに視聴し合い、評価し合う班分けをした。1班あたり10～11名ずつに分け、1～8班まで割り当てた。

【第7回】3分動画のテーマ、評価基準の設定

3分動画の評価基準を設定するため、教員の講義動画の視聴と評価の観点を挙げる課題を受講生に求め、課題はアンケート機能で回答してもらった。著作権についての授業のアンケートで出た質問に対する松下先生の回答をMoodleに示した。

オリジナル動画を制作することを求め、著作権と研究倫理に配慮するよう、繰り返し伝えた。「大分大学における研究活動の不正行為防止等に関する規程」から、ねつ造、改ざん、盗用の定義を確認した。複数の学術情報を出典として情報を組み合わせるよう伝えた。Google ScholarとCiniiを紹介し、学術情報の検索に活用するよう求めた。

動画制作に活用できるWebサイトと、作品例を提示した。

3分動画の評価基準設定のためにアンケートを実施した。4段階ルーブリックを提案することはチャレンジ課題として設定した。決定した動画のテーマも回答するよう求めた。

【第8回】3分動画の制作1

動画評価のアンケート結果を整理して、6観点を伝えた。①衣生活に関する科学的・文化的側面を持つ内容、②構成・筋道・ストーリー性、③3分の時間、④資料の見やすさ、⑤発表の態度 声・話し方、⑥根拠、出典の明記、オリジナリティを

評価することとした。

動画のドラフト制作をしてフォーラムに投稿することを求めた。ドラフト用のフォーマットのファイルを用意し、ダウンロードして記入し、PDFにしてディスカッショントピックを立てて投稿するように指示した。

9～13 回の予定を示し、動画制作の見通しを持たせた。

【第9回】3分動画の制作2

第7回に提示した作品例の科学の側面、文化の側面について解説し、ドラフトの全体的な講評をして、動画の作品は教科書やそれ以外の資料を単純に解説するだけの動画にしないよう注意喚起した。衣・文化・科学というキーワードの定義を再確認し、衣生活の学際性を捉えた上でのストーリー性ある動画制作をするよう改めて呼びかけた。評価の観点も再度確認した。

教員からのアドバイスコメントを確認して、ドラフト・スライドを完成させてフォーラムに投稿するよう指示した。

10-15 回の予定を示し、最終回までの見通しを持たせ、最終レポートの形式を発表した。最終レポートには次の内容の記載を求めた。7.には3件以上の複数の情報源を記すように伝えた。

1. テーマ名
2. テーマ決定の経緯
3. テーマに関する科学的側面
4. テーマに関する文化的側面
5. スライドと読み原稿
6. 課題に取り組んで身につけたこと
7. 引用・参考文献・Web サイト

【第10回】中間報告

中間報告の方法として、班の他の人のドラフトとスライドを見て、返信でコメントするよう指示した。評価の観点の①②④⑥の4つを確認して、助言をするよう促した。褒め合うだけでは意味のあるやりとりにならないので、建設的な意見を伝え、その意見自体や伝え方も成績評価の対象とすることを示した。

班のメンバーの作品を見て、自身の作品制作の参考にしたいと思ったことをアンケートで回答させた。

11-15 回の予定を示し、最終回までの見通しを持たせ、動画の制作を並行して最終レポートを執筆することを推奨した。

【第11回】3分動画の制作3

スライドにナレーションをつけた動画をフォーラムに投稿するよう指示した。レポートの執筆も改めて促した。

大学内で動画を収録できる教室の案内もした。

【第12回】3分動画の制作4

教員からのコメントを参考に作品を改善して再度投稿し、同じ班の受講生の再投稿作品の返信で改善のポイントをアドバイスするよう求めた。

【第13回】動画の相互視聴、評価1

アドバイスのコメントを参考にして、最終作品を完成させて投稿するよう伝えた。

【第14回】動画の相互視聴、評価2

最終作品の締め切り後に、班の他の人の作品を視聴して相互評価アンケートに回答し、コメントも投稿するよう求めた。最終レポートの締め切りはこの週の土曜日 17 時に設定し、提出を促した。

【第15回】まとめ

最終回はレポートの講評をして、最終レポートの再提出が可能であることを伝えた。レポートは書いた後に読み直し、推敲して提出することを求めた。推敲の方法、画像添付の方法、出典の確認等について説明し、優秀なレポートを本人に許可を取って紹介した。

1 度目のレポートは 47 名分提出された。2 度目のレポートは 7 名の提出があった。

成績評価の方法やこの授業の趣旨等について、最後に改めて確認した。動画の制作を通し、ICT の技術を身につけるだけでなく、内容を吟味して構成を考え、人に伝える技術を身につけて欲しかったこと、動画を見て楽しむだけの受け身の姿勢ではなく、作る側の難しさや面白さを実感してもらったことを伝えた。

動画作品の Web 公開希望の有無、論文執筆の際に作品の一部を転載して紹介することの可否、この授業の課題に関する独自アンケートを実施した。加えて、大学の授業アンケートの回答も促した。

表 2 授業の実践内容

	授業の内容	出席人数	授業内容の詳細
第1回 4/13	ガイダンス 「衣服と被服」について	79	動画制作を課題とする理由 衣のイメージ, 「衣」と「服」の違い 言葉の定義, 自己紹介スライド制作
第2回 4/20	動画の制作方法 (自己紹介動画の制作)	72	テキストマイニングの紹介 文化, 科学の定義・解釈 自己紹介スライドを動画に変換・提出 動画制作に役立つサイト紹介
第3回 4/27	衣生活の科学	60	繊維の種類 (動画視聴), テキスト3章
第4回 5/11	衣生活の文化	45	若者の着装行動, 染色と染め文化 (動画視聴), テキスト2, 7, 8章
第5回 5/18	衣生活に関わる 学問の学際性と STEAM 教育	54	洗濯, 人はなぜ服を着るのか 絵本「ペレのあたらしいふく」 (動画視聴), テキスト4, 5, 6章
第6回 5/25	著作権について	55	松下幸之助先生の講義動画視聴
第7回 6/ 1	3分動画のテーマ, 評価基準の設定	47	ループリックについての学習 3分動画を評価する観点 動画テーマを考えて申告
第8回 6/ 8	3分動画の制作1 文献収集・ドラフト投稿	39	動画制作ドラフトの例示 ドラフトの作成, 投稿
第9回 6/15	3分動画の制作2 完成版ドラフト・スライド投稿	43	動画用スライド制作, 投稿 教員のフィードバック
第10回 6/22	中間報告	43	動画用スライドの講評 相互評価
第11回 6/29	3分動画の制作3 動画の投稿 改善アドバイス	34	各自スライドの制作・投稿
第12回 7/ 6	3分動画の制作4 動画の完成	39	各自, 動画の制作・投稿 教員のフィードバック
第13回 7/13	動画の相互視聴, 評価1	43	各班で相互評価 オンデマンド&同時双方向
第14回 7/20	動画の相互視聴, 評価2	39	動画ブラッシュアップ&再投稿 相互評価 (グループの作品)
第15回 7/27	まとめ	33	最終作品, レポートの講評 最終アンケート

3.2 動画作品の評価方法

動画制作のためのドラフト、途中のスライド、完成した動画は、Moodle のフォーラム機能を使用して投稿してもらい、それぞれにコメントする形で評価した。200MB を上限とする設定にすれば、3 分間の動画は全員アップロードすることができた。アンケート機能を用いて、①衣生活に関する科学的・文化的側面を持つ内容、②構成・筋道・ストーリー性、③3 分の時間、④資料の見やすさ、⑤発表の態度 声・話し方、⑥根拠、出典の明記、オリジナリティの 6 項目の観点について 4 件法での自己評価、相互評価を取り入れた。

4 結果と考察

授業の際に Moodle のアンケート機能やフォーラム機能を用いて受講生に回答や返信を求めた。動画の作品、受講生のレポートの内容について報告し、考察する。

4.1 キーワードに関するアンケートの結果

初回授業において実施したアンケートの結果をまとめる。81 名から回答があった。「衣」と聞いて連想するものを挙げてもらったところ、羽衣や衣替えなど、衣服を連想した者もいれば、揚げ物の衣、天ぷらの衣を思い浮かべた者もいた(図 1)。この多様な回答から、「衣」に関することを議論するにあたり前提となる言葉の定義を確認するよう促した。

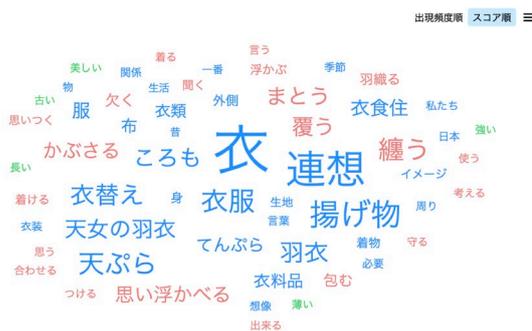


図 1 「衣」から連想するもの、受講生の記述のテキストマイニング分析

第 2 回の授業においては、この授業のキーワードとなる「科学」と「文化」の定義をアンケートで回答させた。

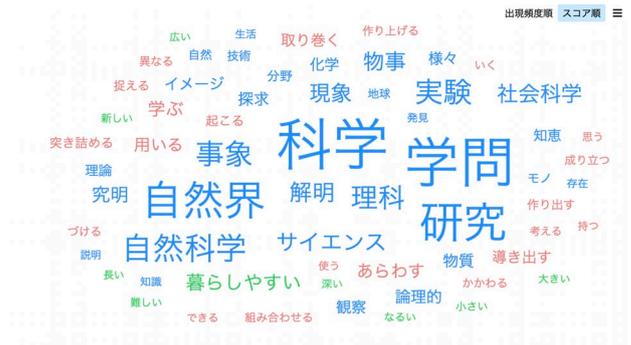


図 2 科学の定義、受講生の記述のテキストマイニング分析



図 3 文化の定義、受講生の記述のテキストマイニング分析

「科学」については、学問、研究、自然界、自然科学、実験、事象、理科、解明、現象、物事、社会科学、究明、観察などの単語が挙がっていた。

「文化」については、受け継ぐ、生活様式、地域、伝統、習慣、人々、伝統、作り上げる、根付くという言葉が多く出ている様子が見受けられた。

キーワードの定義に関しては、辞書の記述も確認しつつ、辞書の文言を丸暗記するのではなく、解釈して自身の言葉で説明してみるように繰り返し促した。それでも、辞書の記述を丸写しにしてしまう学生の存在もあったが、考えて記述するよう粘り強く伝えた。

4.2 動画テーマの設定

最終的な動画作品のテーマを表 3 に示す。掲載許可を得られたものを抜粋した。快適性、機能性、温熱環境、スポーツウェア、環境との関わり、着物、衣生活の歴史、染料や服の色、繊維そのもの、洗濯、着装の心理、暮らし方などのテーマが設定された。

表 3 学生が設定した動画のテーマ (抜粋)

	動画のテーマ
1	衣服の快適性について
2	衣服の機能性
3	衣服の機能と変遷を学び、 衣生活を見つめる
4	温熱環境に対応するスポーツウェア
5	サッカーウェアの素材と歴史
6	体操着の歴史
7	環境と衣生活
8	着こなしと社会環境
9	衣服とサステナブルファッション
10	きもの文化はサスティナブル!
11	ひとときもの
12	温泉を楽しむ温泉浴衣
13	着物の歴史
14	時代ときもの
15	日本の織物
16	日本独自の染色方法
17	色と服
18	染色と染め文化
19	紫の天然染料とその歴史
20	紫系の天然染料について
21	繊維
22	家庭における衣服の管理 ～洗濯の仕方では変わる～
23	汚れと洗濯の歴史
24	洗濯について
25	着装の心理とマーケティング
26	衣服と生活の関り
27	衣生活から考える自分らしい暮らし方

4.3 受講生のレポート

レポートにおいて「この課題に取り組んで身についたこと」として挙げられたものを抜粋して下に示す。①科学・文化の定義に対する理解、②衣生活の知識、③著作権の配慮、④学際的な情報を統合する力、⑤相互評価を活かす力の5項目に分類することができた。

受講生は、課題に取り組んで複数の力を身につけ、自身の成長を実感している様子が見られた。

① 科学・文化の定義に対する理解

今回、この講義を受講して文化や科学について考えるきっかけとなりました。文化や科学についてわかっているつもりではあったが、いざ説明するとなるとどういふものなのかわかっていないことに気づくことができました。

科学・文化 という単語もよく聞く言葉ですがいざ自分で説明することは難しく、今回の動画制作の時も考えるのにとっても苦労しました。講義で先生がみんなの考えた科学や文化について図にして見せていただき様々な考えを共有できたこともよかったです。

② 衣生活の知識

衣服についての知識を高めることができたのもよい収穫でした。なかなか衣服について勉強することはこれまでも今後もなかなかないと思いますが、今回の講義を通じて少なからず知識を得ることができ、日常生活に生かせるであろうことも学習することができました。

この講義を受講したことで、衣服について色々な方向から知ることができた。特に、布がどのようにできているのかは知っているようで詳しくは知らなかったのでもとても良かった。

衣服は身近に存在しており毎日着用しているにも関わらず、その素材や性質、機能に対して意識を向ける機会は多くない。日々、当然身に着ける道具として扱い、衣服に対しての特別な知識を持っているわけではなかった。講義を通して、まず喜ばしいと感じるのは普段意識していなかった対象に意識を向ける機会が出来たことであると考えます。

③ 著作権の配慮

ほかの人のアイデアや作品には価値があり、それを勝手に用いては著作権違法になり犯罪であることです。これから大学を卒業して社会人になり、行動に責任が付いてきます。知らなかったでは許されないのもっといろいろなことを学んでいきたいです。

今回の動画制作の課題で一番身についたことは著作権や研究倫理についての知識である。特に、著作権侵害及び研究倫理を侵害しないように転載フリーなサイトで画像を探すも目的のものが見つからなかったり、著作者の許可を取るのに複数の会社とメールのやり取りを行ったり苦労した。しかし、今このことを振り返ると、めったにない経験ができたとも思っている。

著作権は取り扱いに注意しないと、盗作になり大学生の私たちは著作権違反をすれば立派な犯罪者になってしまう。社会に出たあとでもレポートなどを書く機会があればその時はもちろん今回の著作権の取り扱いについて学べたことは大いに役に立つ。また私は理工学部なので社会に出る前に、実験のレポートや卒業論文があるので大学在学中に今回学べたことを生かすことができる。

④ 学際的な情報を統合する力

自分が一番印象に残っているのは学際性という言葉だ。ある一つの対象について、複数の学問分野から研究や分析を行うことであり、この言葉を知ってから学びや研究に対しての視野が広がった。今回はただ衣服というテーマだけであっても様々な視点から見ることで学べることがあり面白いなと思った。

動画制作では情報を集めまとめること、人に自分の調べたことや考えたことを伝えるために集めた情報を取捨選択し、限られた時間内分の発表内容を作ることを学びました。取捨選択や構成を考えることはとても難しく、この講義でプレゼン資料作りの基礎を学べ、次にプレゼン資料を作る際に経験が生きると感じた。

調べて→スライドにまとめて→音声をつけるという一連の中で、プレゼンの基本的な流れを知ることができました。情報を得てから選別を行い、それをカタチになるようにまとめてそれを声にすることで自分でまとめる力も身についたと感じます。

動画制作では、どのような構成で進めるのか、どのような内容を折り込むなどとても難しかった。日頃からYouTubeなどを見たりするが、自分の動画とクオリティに差がありすぎてさすがクリエイターだなと感じた。これらの活動を通して、情報収集や計画、構成を考える力が身についたと感じる。また、どうすれば効果的に相手に伝わるかを考えることで、日常に溢れている広告なども参考になるとわかった。このことから、日常生活の中からも色々なことを学ぶことができると体感した。これからは、些細なことでも吸収して成長していきたいと思う。

⑤ 相互評価を活かす力

科学と文化の側面から物事を考えることがなかったため、やや難しく感じたが、定義をおさえたうえで自分なりにまとめることで力がついたように感じる。動画やプレゼンの製作にはまだまだ課題が多くあるように思うが、他者の作品や評価を見ることで自分の課題に気づくことができたのは今後の成長の糧になると考える。

授業の相互評価では、人の資料を見て良いところを探すことの大切さを学んだ。自身の作った資料と人の作った資料を見比べることで自分の資料の良い点と悪い点が見えた。人の意見をどのように自分の発表に組み込むかを考えることは難しかったと感じました。また、自身の伝えたいことが上手く伝わっていないこともあったと思った。受取手がどのように考えるか、感じるかを考える良い経験になったと考えた。

公開授業受講生は、各回の課題を学生同様に提出して熱心に学習に取り組む姿勢を見せて、学生に対して良い影響を及ぼしていた。レポートも自主的に提出され、次のコメントをいただいた。

「動画作成では、衣生活のことを科学的側面、文化的側面から考えることで、視野が広がり、また、伝えたいことを、沢山の情報の中から取捨選択していく過程、伝える順序などが学びとなった。相互評価では伝わり方などの理解に繋がりととても

参考になった。また、学生さんの作成した動画を見ることで、科学と文化は互いに影響しあい発展しているということを感じた。著作権の問題や、動画作成の際の使用方法など具体的なこともとても勉強になった。これをきっかけに、社会で必要とされる情報提供が適切にできるよう励みたい。」

一名ではあったが、公開授業の受講生を受け入れたことで、受講生、学生双方にとって良い学び合いの機会となったことが伺われた。

5 まとめと今後の課題

動画制作というアウトプットを目標として情報を収集し、「衣、科学、文化とは何か？」という問いを深めつつ、テーマを絞り込んで探究し、著作権に配慮して情報を整理することを課題とした。相互評価で作品をブラッシュアップしていく様子も確認できた。しかし、途中で課題の提出をやめてしまった学生も多く、84名の履修登録に対し、最終レポートの提出者は47名で、再提出7名、最終的に単位を取得できた学生は36名(42.9%)であった。

2021年度に開設した「衣生活論」では、履修者52名、最終レポート提出者が44名、再提出23名、最終的に単位を取得できた学生が47名(90.4%)であった。昨年度と比べ、単位取得者の割合が半分以下になった。2021年度は基本的に全員がオンライン授業を受講していたが、2022年度は対面授業が行われている状況で、あえてオンラインを選ぶ学生が履修している様子があり、そのことも影響を及ぼしていると考えられる。

最終回に「この授業の課題」として発展的にもっとこうの方が良いのではという提案があれば回答するようにと伝えてアンケートをとった。33名が回答し、最後まで学習を続けてきた学生の回答であったため、空欄や特にないという記述が最も多かったが、「(動画の)音量が小さかったのでより大きいとよい」「課題の提出期限をもう少し長くしてほしい」という要望があった。音量については今後改善が必要であり、課題の提出期限に関しては、早めの見通しは示しているため、これ以上の配慮は必要がないと考えていたが、再検討も必要かもしれない。「適宜双方向での授業を組み込

んでもらえると、より授業に親身に取り組むことが出来るのではないかと思いました。先生との距離感があり、すこし寂しく講義への気持ちが入りにくかった気がします。」「オンデマンドではなく対面やオンラインのほうが、リアルタイムで相手に感想や意見を伝えることができるのではないかと思いました。」という記述があり、オンデマンドで授業を実施することの難しさを実感した。対面や同時双方向オンラインのライブ感を補うことは難しい面があるが、近づける工夫をさらに凝らしていく必要を感じた。

一方で、最後まで課題に取り組んだ受講生はこの課題に取り組んで身についたことを多く記述しており、自身の成長を実感している様子が確認できた。

反省点を改善し、さらに学生がより深く学べるような工夫をして、今後もこの科目を開講したい。

謝辞

本研究対象の第6回の著作権の授業においては、大分大学研究マネジメント機構知的財産管理部門長 松下幸之助先生に講義動画をご提供いただいた。ここに謝意を表する。

参考文献

- エルサ・ベスコフ作・絵, おのでらゆりこ訳(1976). ペレのあたらしいふく. 福音館書店, 東京.
- 大分大学(2015)国立大学法人大分大学における研究活動に係る不正行為防止等に関する規程, <https://www.oita-u.ac.jp/kitei/12-ag01/ag39.pdf>, (アクセス2022年8月31日).
- 都甲 由紀子(2021). 色をテーマとした動画制作を取り入れたオンライン授業: 大分大学教養科目「色彩の科学と文化」. 大分大学高等教育開発センター紀要, 13, 51-67.
- 都甲 由紀子(2022). STEAM教育における被服学の可能性. 工学教育, 印刷中.
- 山口庸子・生野晴美(2019). 衣生活論 持続可能な消費と生産. アイ・ケイコーポレーション, 東京.